

3月定例報告

市長総括説明から

2月25日、平成23年第1回市議会定例会が開会しました。

豪雪災害対応やコウノトリ但馬空港からの東京直行便継続協議などの報告をした後、所信を述べるとともに提出議案を説明しましたので、その概要をお知らせします。

○所信

平成22年度は、豊岡にとっては「世界の扉」が開かれた1年でした。平成23年度は「小さな世界都市」の実現に向けて、開かれた扉の向こうに豊岡を大きく羽ばたかせます。

○平成23年度予算

「豊岡の地域力を結集し、小さな世界都市を目指す予算」としました。

なお、起債発行に伴う将来世代の負担軽減を図る措置を講じています。

《主な施策》

■安全に安心して暮らせるまち

簡易耐震診断個人負担無料

化、耐震改修工事費補助、五荘小学校耐震工事を行い、NTTドコモの「エリアメール」により緊急情報を発信し、避難行動を支援します。

すこやか市民ドック、子宮けい部ガンなどのワクチン接種助成を継続し、国民健康保険の特定健診の自己負担を無料にします。

高齢者の日常生活援助、障害者には介護・自立支援医療給付を行い、聴覚障害者などへは要約筆記者を派遣します。

■人と自然が共生するまち

市民の協働を促すボランティアの日「生きものの応援デー」の設定や市民活動支援助成事業を行い、コウノトリ野生復帰の進展のため、大学の単位取得講座誘致助成など知の集積・交流事業を拡大します。

また、豊岡型地域資源循環システムの構築を目指し、ペレットストーブ・ボイラー設置やバイオマスタウン事業、太陽光発電を推進します。

現最終処分場については、残容量の9年間延長を目指します。

■持続可能な「力」を高めるまち

高めるまち

豊岡の魅力を国内外に発信し、受入環境整備やイベント開催により、誘客促進に努めます。

また、環境負荷の少ない農業の拡大に取り組み、コウノトリ育むお米を国外に紹介します。有害鳥獣対策や市産材使用による林業振興を図ります。

企業誘致は東海・中国地域などの広範囲で展開します。道路網・橋梁整備、空路・鉄道・バスなどの公共交通の確保・充実、定住促進に努めます。

■未来を拓く人を育むまち

次世代育成支援対策地域行動計画に基づく、総合的な子育て支援、少子化対策を推進します。発達障害児などの育児支援やマイナスイラストからの子育て支援を進め、校庭の芝生化、認定こども園の施設整備を実施します。

■人生を楽しむ

お互いを支え合うまち

出石永楽館で引続き歌舞伎、狂言の公演を実施し、スポーツ振興計画の策定に取り組み、集落機能の活性化を図り、防災拠点となる小野地区公民館を整備します。

また小規模集落活性化事業、過疎地域戦略プロジェクト、地域力再生事業を継続します。

■市政の運営

豊岡地域では、玄武洞公園を活用したジオパークの拠点づくりや豊岡駅前広場整備事業などを実施し、コウノトリ野生復帰などの取組みを強く国内外に情報発信します。

城崎地域では、城崎温泉と市内の歴史・伝統・文化などの観光拠点を連携し、観光インバウンド対策を推進します。また、城崎ボートセンターのボート更新や城崎地区無電柱化計画実施設計に入ります。

竹野地域では、参加体験型・滞在型の観光、「たけのスタイル」を推進します。また、「三原谷の川の風まつり」のアートギャラリー拡大を支援します。

日高地域では、スポーツのメッカ・観光スポットとして振興を図ります。また、「2011日本冒険フォーラム」を明治大学で開催し、かねて湯の森「ゆとろぎ」整備基本計画を策定します。

出石地域では、出石永楽館の活用を図り、伝統的建造物群保存地区保存事業を進めます。

また、出石城跡の石垣の現状調査を実施し、伊藤清永生誕100年展を開催します。

但東地域では、シルク温泉「やまびこ」の点検調査業務を実施し、農家民宿、チューリップまつりなどにより、交流人の増加を図ります。また、東井教育の普及を図ります。

行政改革を徹底的に推進し、国と南極地域観測隊に職員を派遣し、職員の資質向上を図ります。

《主要項目》

○円山川緊急治水対策事業

豊岡排水機場整備、KTRR円山川橋梁架替、鳥居橋の架替工事等は本年度完成予定、中郷築堤・八代排水機場は平成23年度完成予定です。

円山川下流部は、平成23年度から用地買収、桃島排水機場工事に着手されます。

○防災公園の整備

宗教法人神道親導教用地と日高地域の旧蚕業技術センター跡地を防災公園にするため、取得します。

○スマートウェルネス豊岡構想

健康をまちづくり政策の中核とする構想案をまとめました。象徴となる「仮称 歩いて

暮らすまちづくり条例」の制定を目指します。さらに、8月を目的に「健康ポイント制度」を創設します。

○総合健康ゾーン診療所設置

生活習慣病などの改善・予防のため、運動療法に特化した診療所を開設します。

○豊岡市緊急医師確保対策

就業支度金貸与事業

市内の公立病院で、麻酔科、呼吸器科など緊急性のある診療科の医師確保のために、就業支度金を貸与する事業を創設します。

○周産期医療体制の検討

「定住自立圏構想」に但馬3市2町で取り組み、今議会中に本市が「中心市宣言」を行います。その後、特に小児科と産科が連携する周産期医療対策を検討します。

○地域福祉計画、

障害者福祉計画等見直し

平成23年度、地域福祉計画、障害者福祉計画の見直しを行い、障害福祉計画第3期計画・老人福祉計画・第5期介護保険事業計画を策定します。

○外出支援サービス事業の

利用者負担等の見直し

公共交通機関利用が困難な

高齢者等が、通院等で移送サービスを利用する場合の利用者負担額を見直します。一部の方の負担額は安くなります。

○コウノトリ野生復帰を

めぐる取組み

「円山川下流域および周辺水田を「国指定鳥獣保護区」に今年設定し、平成24年のラムサール条約COP11での登録を目指します。

○北但「こみ処理施設整備事業

北但行政事務組合で用地買収が進められています。平成23年度は、進入道路・敷地造成工事等が計画されています。

○下水道施設の統廃合

汚水処理施設の統合を進めます。平成23年度は、日高の西気処理区を清滝処理区に統合し、長寿命化対策も行います。

○山陰海岸ジオパークの推進

誘客促進のためジオツアーバスへの補助を計画し、ジオガイドの増員、国際会議の開催を考えています。

○(仮称)鳥獣害共済基金

造成事業

県、市、農家が基金を積み立て、鳥獣被害農家に支援金を交付するという県事業ですが、現農業共済制度と乖離な

どがあり、当面は参加しません。

○豊岡市農業振興戦略プロジェクトの策定

環境創造型農業の推進、「コウノトリの舞」農産物の販売拡大、環境直接支払制度などを柱にした農業振興戦略プロジェクトを策定します。

○豊岡市道路整備計画策定

客観的に路線の評価を行った道路整備計画を今年の3月末までに策定します。

○豊岡駅前広場整備事業

駅前交番の移転等を行い、平成23年度に完了予定です。

○バス交通対策

地区主体の運行である「チクタク奥山」は4月から本格実施とし、但東の奥赤地区でも導入する予定です。また、神鍋線で10月から上限200円バスの実証実験を行う予定です。

○但馬空港周辺用地の利活用

市土地開発公社が先行取得し、借入金利がかさんでいる但馬空港周辺用地を利活用するため、「(仮称)空港周辺里山ふれあいの森」構想を策定します。

○景観計画策定等に向けた

取組み

良好な景観の保全・創造の

ため、平成23年度の計画策定を目指します。

○統合型GISの導入

庁内で利用する地図データを「共用空間データ」として整備し、利用できる仕組みを作りたいと考えています。

○幼保対策

竹野・中竹野地区、西気・清滝地区の認定こども園と日高幼稚園の施設整備、城崎地域、日高の国府・三方地区の認定こども園の施設改修補助などを行い、認定こども園4園で短時間部の2年保育を開始します。

○豊岡市学校給食施設の

あり方計画の推進

豊岡施設・出石施設の実施設計などを実施します。また、平成23年度からコウノトリ育むお米の使用を週2回に増やします。

○「いのちへの共感に満ちた

まちづくり条例」の制定

市民との意見交換をするため、条例案提出を今年9月定例議会に延期します。

○情報発信

国内外、首都圏へのさらなる情報発信のため、東京にアンテナショップを開設します。

過疎地域自立促進計画に、城崎・竹野・但東地域の独自戦略プロジェクト事業を追加します。

○経済成長戦略の一部見直し

環境都市「豊岡エコバレー」に交流人口の増加を促す「大交流を加える見直し」をし、8つの新規プロジェクトを追加しました。

○新庁舎建設

建築工事・電気設備工事は入札を終えました。機械設備工事は入札の再公告をいたしました。なお、敷地の土壌調査結果の対応は県の指導を受け、適切な取扱いを行います。

○組織の見直し

豊岡エコバレーの全庁推進体制強化のために、政策調整部に「エコバレー推進室」を設置します。

また、経済部経済課に「ものづくり支援センター」を、健康福祉部健康増進課に「健康まちづくり推進室」を、都市整備部都市整備課に「景観政策係」を新設します。